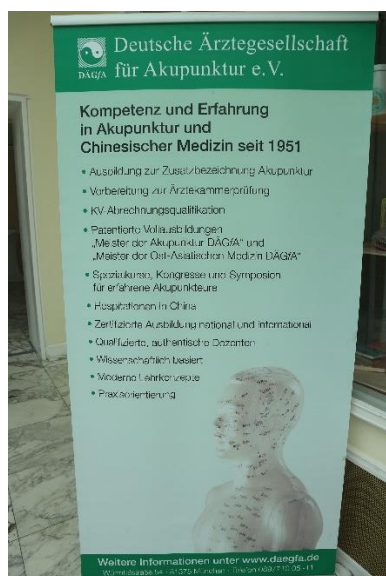


「第33回DÄGfA 国際鍼週間」に招かれて

長野式臨床研究会 副代表 長谷川吾朗

2019年5月28日の午前、長野式臨床研究会代表長野康司と副代表の筆者は羽田空港を飛び立った。ドイツ、フランクフルト郊外にある高名な保養地バートナウハイムで開催されるDÄGfA（デクファ）の国際鍼週間にワークショップとセミナーを行うのが目的である。

DÄGfAとは、ドイツ鍼医師会の略称であり診療に鍼を用いる医師たちが結成した団体で、会員約8,000人を擁し、鍼に関心を持つ医師のためにカリキュラムを設け、鍼を打つ資格を認定している。基本はTCMに基づくが、日本の鍼にも関心がある。DÄGfAは、毎年キリスト昇天祭の日（移動祝日で今年は5月29日）にこの地で会員総会を開き、これを挿む前後各3日間に国際セミナーを行っている。今年は5月27日から6月2日までの7日間で、バートナウハイムで行われるようになってから33年目を迎える。日本からの参加もあるようだが、今年は長野式治療が日本鍼灸の紹介役に選ばれた。



DÄGfA 国際鍼週間への参加は、日独ソリューションズ代表の池田イゾルデさんと東大名誉教授池田信雄氏ご夫妻の尽力で実現の運びとなった。

同日夕方フランクフルト空港で池田夫妻の出迎えを受け、車で一時間と少しのバートナウハイムへ向かった。いよいよ本番開始かと緊張感が高まってきた。翌日の夜20時、DÄGfA総会への招待者を招いての食事が開かれた。フランクフルト近郊は、緯度の関係で21時過ぎまで十分に明るい。DÄGfA代表のイルニツヒ博士、養成プログラムの責任者トリンチェック博士は以前鍼灸実技披露にミュンヘン大学を訪ねた時のことを覚えていてくださり、和やかな会食となった。



翌5月29日総会の日の午後、いよいよワークショップが始まった。我々が発表するのは14時から90分、16時から90分の2部構成だ。第1部は代表の発表、参加者は40名、軽く長野式治療を説明し、早速実技に入る。その後参加者にも直接鍼を打ってもらい、長野式治療を実際に体験してもらう。第2部は筆者が担当、参加者は35人、筆者も実技を行い、第1部と同様に長野式治療を体験してもらった。参加者は、初めなかなか鍼を持つとしなかったが、一人二人と鍼を打つにしたがって、体験希望者が増していった。そして、参加者自ら打った鍼でモデルになった人の症状が取れていくのを目の当たりにすると、初め疑いの目で見ていた参加者の顔が皆笑顔に変わっていくのを感じた。常に実体験が一番伝わっている筆者の思惑は当たった。2部合わせて3時間のワークショップはあっという間に終わり、代表、筆者ともに日本でやるセミナーと同様の高揚感を味わうことができた。



5月31日いよいよ本番、二日続けての8時間セミナーの幕開けである。昨日のワークショップからの参加者が殆どで、38人の医師が参加した。初日は代表が長野式診断法と免疫系、血管系の講義、そして実技。午前中に診断法をみっちり伝え、その後ベッドを二つに分け、二人で実技を指導した。ドイツ人医師ライセンベーヴァーさんが2台目のベッドサイドで通訳の協力をしてくださったおかげもあり、日本のセミナー同様たっぷり指導し、目一杯体感していただくことができた。午後は、処置法の講義の後、みっちり実技の時間を取った。参加者の満足度は高かった。





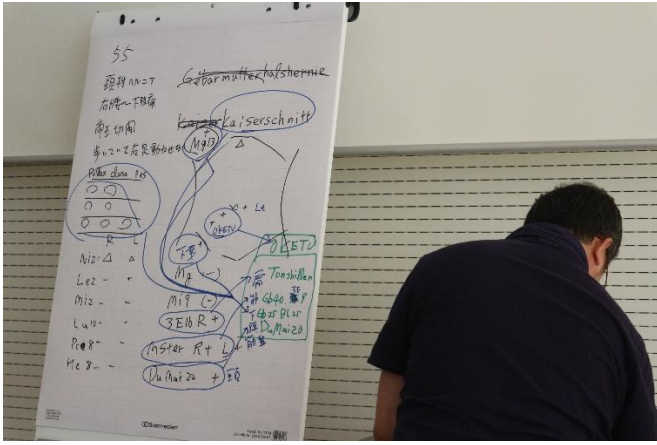
6月1日、セミナー2日目、担当は筆者。参加者は、日程都合で二日目に参加できずに残念とわざわざ断りに来た医師を除き全員参加だ。最終日は神経内分泌系、筋肉系、気系の講演、午前中に自律神経処置を説明。交感神経緊張時に口が乾くが、唾液が出る方法を指だけでも改善できると伝えて実践してもらおうと、みな唾液が出るのを確認。ワークショップ同様、初日の険しい表情がどんどんほぐれていき、眼の輝く優しい顔ばかりが並んでいた。



セミナー最後のモデル治療には、ひとりの医師から自身の患者さんを直接連れてきたいとの依頼を受ける。希望者はその患者さんも入れて4名、代表と筆者で2台のベッドに分かれ、説明しながらどんどん治療をしていった。治療した4人はいずれも、治療後清々しい顔で何度もお礼を言い握手をして帰っていった。

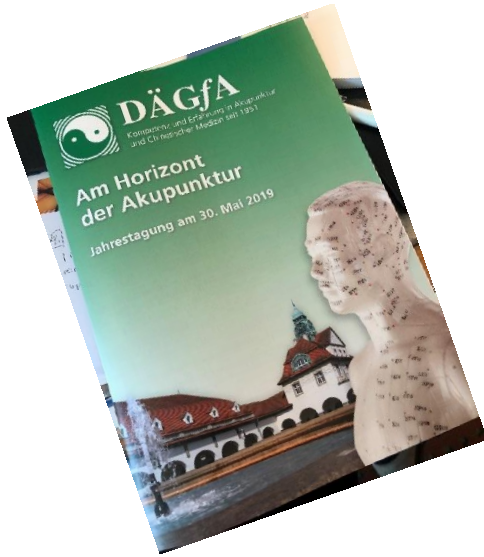
丸二日間の講演が無事に終わり、参加者に挨拶をすると、全員がスタンディングオベーション、しかもその拍手がなかなか終わらない、いつまでも拍手を頂き感無量だった。代表も筆者も心から講演の成功を感じることができた。





DÄGfAの国際鍼週間という大きな場でのワークショップとセミナー、それも3日間もの時間を頂き、感謝の言葉もない。その成功の裏側には参加者の気持ちを掴む通訳の力が欠かせない、日独ソリューションズの池田夫妻の力なくしては成し得なかったことである。またDÄGfA代表のイルニツヒ博士、トリンチェク博士、そして円滑な会場運営に尽力くださったDÄGfAスタッフにも合わせてこの場でお礼を言いたい。







2019.5-28~6/3 ドイツ ヘッセン州 バートナウハイム